

標 題	今年も出雲農林高校で優良系統デラウェアの育苗がスタート！！ ～昨年を上回る約300本を定植～
-----	---

(ダイジェスト)

JAしまね出雲ぶどう部会は産地再生に向け、優良系統デラウェアへの改植を進めており、昨年から部会と出雲農林高校が連携し、良質な優良系統デラウェア苗木の安定生産と供給を目指しています。昨年育成した苗の品質は非常に良く、生産者からはさらなる増産が期待されており、今年は昨年を上回る約300本の育苗を行います。

出雲地域のデラウェアは、生産者の高齢化や担い手不足、樹の老木化等により栽培面積や出荷量が減少しています。そのため、JAしまね出雲ぶどう部会では、平成28年から産地の再生に向け、優良系統デラウェアへの改植を進めています。しかし、苗木の育成を県外の業者に依存しているため、苗木の品質にバラつきが大きく、この対応が求められていました。

そのような中、出雲農林高校と部会が連携し、ぶどう栽培技術の習得という授業目的の達成と、地域内での優良系統デラウェア苗木の安定生産をめざし、昨年から苗木育成の取り組みがスタートしました。

昨年、農林高校で育成された苗木の品質は非常に良質で、高い評価が得られたことから、同校では昨年の180本から300本に増産することとし、3月には農業技術センターで職員からの指導を受け、接ぎ木をしました。その後、接ぎ木した穂木を同校のミスト室にて発根、発芽させ、5月21日には、校内のハウスへ定植しました。

今後は、掘り上げを行う12月まで、誘引、芽かき等の管理作業が続くことから、普及部としては、関係機関と連携し、苗木の管理指導と安定な供給ができるよう、継続的な支援を行うとともに、同校の苗木の育成をテーマにした課題研究に協力することにしています。



接ぎ木実習の様子



苗木植栽の様子